

新板
頭書
名所
古跡

上
草津温泉
往來

森治
齋
板元

白

温泉之温觴

當温泉八人皇甲

はげ乞正天皇の治
字必基菩薩書
老今年四月宅心

て温泉とありて
ゆき後建之者
右支那物とさう
らに珍所一也
温泉不浴一也
吾湯と出方のいと

の形我々の心
を傍に今存す

當所名勝

白根
山根
白根山といふ
常小畑といふ



上州温泉往車



育月西影晴て月見

朗る小郭云の峰

海日よると天氣森

夜打寝ぬまはいでわ

白根山とてその

温泉とてその

温泉とてその

温泉とてその

温泉とてその

青久の由藤紙
 小く念ふと云わ
 是(初)生(意)をわ
 焼(海)の(老)之(禁)と
 の病(作)す(中)ふ
 く(る)を(覆)す(と)流
 り(九)温(泉)楯(孔)
 慶(を)り(山)の(小)疏
 英(徳)藝(師)の(心)乃
 け(る)を(不)和(ら)す(と)

道(みち)之(の)世(よ)の(末)(つひ)
 仁(に)礼(れ)宿(しゆく)栴(せん)檀(たん)の(光)(あかり)
 古(ふる)も(ま)を(れ)た(ら)未(いま)宗(そう)
 一(ひと)部(ぶ)今(いま)の(世)の(末)(つひ)實(まこと)

十返舎一九
 榮松齋



肥前長崎往來全	熊野玉津寫詣同	七不越後往來同	北國廻往來同	伊勢多宮往來同	目黒系往來同
---------	---------	---------	--------	---------	--------

永徳用文章	卜筮卦文問答	卜筮初心傳	初心塵劫記	新編塵劫記	永寶塵劫記	金徳塵劫記
厚本	全册	折本	大本各册	大本	半紙形厚本	同

天保三壬辰年六月吉日
 原板西宮新六
 馬喰町二丁目
 森屋治兵衛板

東都 地本問屋

下總國千葉郡佐倉領

積橋

自月日

積橋

江戸徳門

新板
頭書
名所
古跡

上
草津温泉往來

板元
森治

温泉之温觸

當温泉ハ人皇四

代元正天皇の法

字以基菩薩畫

老今年月宅正

て温泉とある

ゆき後建久寺

右条新物

にた新物

温泉

白根山



草津温泉往來

有月西漸晴て月れ

朗るの郭云の端

後日よると天氣驟

致す疾風は巴以てわ

白根山

温泉

白根山

白根山

白根山

碓氷の懸るう草
 津温泉いふう
 殺之河原白根山
 のりふわう紫雲
 新木井地の穀氣
 へあまてふすあふ
 ちのの穀樹は死
 ちのの若を賜
 地上は死つてもあ
 てはてあ人出先と
 肥けあ忽と死す

とては是地和石
 寺ふあなと云
 聖物山嶺及乃夜
 少く火と瘧を王
 氷谷の石をわく
 鬼の角力場の
 古徳の形あから
 石のいふてま石と
 採石 木葉石
 茶谷 鬼の頭

諸夏之紀行 牧多
 見ゆれどとて高野が
 甚煙方とのと著とど
 折福じの原とすは
 日毎に勢ひ山川の佳

京と愛つて其所乃
 俚云は煙も異形るぬ
 梅行とを面白けれ
 先言高野の河とてお
 是て言の奇に哉後

東洋の世方乃法
 瓶波多田の方へ
 物志布紙乃
 系津より去ぬも
 河原山よりさあ
 寺隆尾り新井
 越後方面
 善光寺
 大経より四代
 仁礼初福徳三
 善光寺

右側乃に法者宗
 じろをそそふ
 付多田然り紀
 善光寺
 此酒沢中の沢大
 船津より全まに
 建物の茶や彩が
 あり金物のみ
 草時が沢通
 修善保へゆ
 系津よりまじり
 沢渡より中津

道の標石を立る横町
 七邊方折の圍中此
 徑二筋の別をきる東
 三玉樹乃及び保
 香保吾妻なるあり

西、榛名、草津への徑
 茶が、穂、むら、と、が、寛
 杖を、進、て、徑、の、室
 里、宿、小、到、る、是、ら
 一、里、餘、東、よ、白、岩、と

五丁田 ツバキ
 水沢 ツバキ
 中仙 ツバキ
 芝津 ツバキ
 新田 ツバキ
 江戸六の系中系
 華屋 ツバキ
 外人 ツバキ
 榎 ツバキ
 菅原 ツバキ
 とも ツバキ



温泉功能

糸つ乃湯
 日毎 ツバキ
 熱乃 ツバキ
 痛む ツバキ

只六坂東吹乳の乳
 河多千面鏡音れ
 雲場より行て榛
 名へのあま道あ山家
 ろり程一里路榛名

芝権現別当の般若
 地と心は瑞著明
 師ますとて箱
 常は終ととる名主
 念との念とお断との

入平一まついせんま

河内三内より

加川けの湯

弘法大師の念ふ

湯あり肺氣之疾

治之ふより

けの湯

此湯を平やまら

るが弱き人治

性の人を承く治

む元氣を治す

ふた女湯姓すなり

胆乃老りて遠くも

大倉の宿ふる此湯

牡丹酒と云名産乃

中を吸筒ふ福全

ゆは沖國所も戸

マノ湯

此湯を治す

熱を治す

ひ打湯

熱川の湯

地蒸の湯

此湯を治す

能乃湯

万病を治す

因々沖代のみ産

ゆは獨りの能も恙

ゆは本宿と控て着

尾の河ふりる産

湯は是より南ふ

運上正門下口

入湯雜費

宿代 二分 二番文

湯代 二分 二番文

蒲巻 二分 二番文

水揚げ 二分 二番文

右席代 二分 二番文

猪質換料

高人賣物

米 五分 考物

油揚 豆腐

若幼る阪道とる

きは尤の奇伝淡海

えの進分有る六万字

此所仲持の雲の難路

少る也右の方より奉定

此の茶店有るに

想ひ咽と潤し見後

なげ湊名山の標をふ

柳川地流々嶽の

雪と櫻と横とる六里

不物 難路

芥菜 産後豆

菓子 餅梅

給糖 山自真

蕎麦 温純

甘酒 葛粉 四果

味噌 醤油 酢

茶履 紙 煙草

揚枝 ともみ

右の番人湯着

袴 多し 巾着

當所産物

氷解 水さしぬ
ゆきと交絡 湯
挽物細工 手敷
あやま著 糸巻
さくらんご



草履 雨 温泉
乃法付

日向万歳のゆきこり
日向の林山人あり
日向系のゆきこり
日向島の火ハリ
日向中のゆきこり
信州山の湯乃
あまの湯乃中井
交際すまの湯乃
大世一子田代
山の湯乃
山の湯乃小諸乃
山の湯乃小諸乃

江原道下は麓隈伏
の山目常ふ群のり
少り恙ハ長野東の
橋下ハ谷川名聖集
怪洋ハ碑と玉珙

女と夫系を又二
箇乃壯親あり川糸
此湯定より二戸東
かまの羽根尾乃二
里際西よる車小原

みろりニリ小伝

草津 越後

赤倉温泉道

善光寺をたのむ

のりあまをたのむ

善光寺をたのむ

善光寺より河内折

むれるニリ 柏原リ

那尾一リ せり川井

赤倉温泉

右の宮川の左の方

赤倉山から近年

山で煙をて草津の國

喉新田所を所を煙を

中町の末末岩屋を

宿と室の宿憩ひ

先温泉の宿は利の

乃方の湯は不動の

滝天物の滝茶所乃

湯壺を十七本弁出産

の湯沸の湯熱は白の

西中町の湯は有徳の

彫るる新湯を

徳病を癒あうそ

入湯の人多く湯者

も新湯をたのむ

藤巻を製思まう

平井より佐原中

との湯をたのむ

と近うあり

上田より

新一の沢より

方新より

赤倉温泉

湯の松本村井ノ半

河内湯宿長巻

中へつれりしに

別荘の湯つな

松本郷の湯

松本郷の湯

松本村井ノ半

中系打洗

下流の湯

上下の流湯温泉

下下の流湯温泉

湯の松本村井ノ半

諸悪を断つて
 喉痺み妙薬と
 此病を治す
 さるかに握薬
 首に醋
 是と灌ぐ
 是れこと救非
 て立平の
 瘡と云ふ

個程一旅客の枕
 と誓り揚ら
 美婦と撰ぐ
 軍書講釈
 心名家と請

英石の下に
 大熱なるもの
 硫黄七十二石
 消原配
 火を
 物を
 能を
 あり

具とる
 出ん
 生園
 成る
 たり

青い...
 より...
 焼...
 の...
 く...
 ち...
 慶...
 英...
 け...

西の道...
 仁乳...
 古ふ...
 一...
 十返舎一九撰
 栄松齋 著

肥前長崎往來 全

永徳用文章

半紙 厚本

熊野 玉津島詣 同

卜筮卦交問答

全齋

七不 越後往來 同

卜筮初心傳

折本 一冊

北國廻往來 同

新編塵劫記 大全 大本

伊勢參宮往來 同

永寶塵劫記

半紙形 厚本

目黒 糸須往來 同

金徳塵劫記 同

天保三壬辰年六月吉日

原板西宮新六

東都 地本問屋

森屋治兵衛板

馬喰町二丁目

江戸樂舎用

